

【優秀賞】

一人一人の行動で変わる未来

仙台市立向陽台中学校

三年 高畑花音

今世界は深刻な水不足にあることを知っていますか。知らなかったり、知っていても全く実感していなかったりする人が多いのではないのでしょうか。実は私もそうでした。蛇口をひねれば必ず水は出るし、夏になればプールなどでたくさん水を使います。「水道代を節約する」くらいは考えても、まさか世界が、そして日本も水不足の危機に瀕しているとは考えもみませんでした。

私が水不足のことを調べ始めたのは、祖母との東日本大震災についての会話がきっかけです。震災当時、私は生まれていました。まだ一歳。あまりに幼くそのときの記憶は全くありません。そんな私に祖母は当時の様子を細かく話してくれました。祖母が住んでいた場所は地震や津波による直接的な被害はありませんでしたが、ライフラインがストップしてしまいました。ガソリンもなくなり、車も使えなくなりました。その時の記憶がない私からすると、電気がない、ガスがない、車がない……というのは大変そうです。どれが欠けても「本当に生活できるかな」と思ってしまうのですが、祖母は、「交通手段や電気、ガスも困ったが一番、水の確保に苦労した。」と言っていました。「交通手段は自転車、ガスも電気も石油ストーブがあったのでそれで賄えたが、水の代わりはなく本当に苦労した。近くの小学校に水をもらいに行ったが何時間も並んだのに二リットルしかもらえなかった。二リットルのペットボトルを三箱ストックしてあった。一人暮らしなので、家族で住んでいる親戚の家に少し持っていったりもした。自衛隊の人がお風呂を用意してくれ、それに入ったときはとても幸せだった。」などと、次々に出てくるエピソードに驚くとともに、水の大切

さを改めて実感し、水不足について調べてみようという気持ちが沸いてきました。

水不足について調べてみると事態は、思ったよりもずっと深刻でした。今、世界では、世界人口の四十パーセント以上にあたる三十六億の人が水不足に悩まされており、この数値は今後とも上がっていくと予想されています。水不足になると、世界の穀物生産の約半分に影響し、水ストレスによるリスクも高くなります。更に今、地球の陸地のおよそ四分の一、約三十六億ヘクタールが砂漠化の影響を受けています。これらの問題は、地球温暖化などによる環境問題や、人口増加や農業、産業の発展による「水の使用量増加」が原因となっており、起きています。ただ、これは世界全体の話で日本は梅雨や台風もあるから問題ないのではと思う人もいるかもしれませんが。調べてみると確かに日本の平均降水量は世界の平均と比べると約一・六倍に及びます。しかし、たくさん降った雨は、日本特有の急勾配の地形により一気に海や川に流れてしまうので、陸地にとどまる水は限られ、実際に使用できる水の量は、人口一人あたり世界平均のおよそ四十五パーセントしかありません。つまり、日本もいつ水不足になってもおかしくないといえます。

では、水不足の解消のためにどんなことができるでしょうか。私は、油などで汚れた食器はある程度新聞紙などで拭いてから洗ったりするなど、身の回りのできることを考えて実行しています。ですが一人ですることには限られていてとても微力です。だから、水不足のことをできるだけ多くの人に知ってほしいと思います。一人ですることができることはわずかかもしれないですが、多くの人で少しずつ水の使用量を減らせばきっと大きな力になります。「私達の少しの行動で水不足が緩和されるかもしれない。亡くなる人や、苦しむ人が少なくなるかもしれない。」このように考える人が少しずつ増えていくことを私は願っています。